

人権教育広報

ふれあい



第10号

編集・発行 桶川市人権教育推進協議会



「牛ってかわいいね」
桶川西小学校 1年 伊藤朱澄

人権標語

だいじょうぶ? きけるところは やさしいところ

● 桶川西小1年 エラホン マリー ●

忘れるな 君は絶対 一人じゃない

● 川田谷小6年 内田 駿作 ●

さし出す手 つながる絆 思いやり

● 日出谷小6年 窪 歩香 ●

なかまだよ いじめさせない いじめない

● 桶川小3年 片山 航太 ●

聞いてごらん だれかが辛さを 叫んでる

● 桶川東中2年 丸山 洋平 ●

動き出せ あなたの勇気で 救われる

● 加納中3年 小林 直一 ●

いけないよ いじめをみたのに しらんぷり

● 加納小5年 平野 莉那 ●

その言葉 自分が言われて 平気かな

● 桶川東小5年 小池 晴日 ●

なれるかな 小さな私も だれかの力に

● 朝日小5年 浦川 愛菜 ●

考えよう 一人の存在 命の重さ

● 桶川中3年 川島 紗耶 ●

育てよう 弱い自分に 負けない自分

● 桶川西中2年 鈴木 美穂奈 ●

本校では、「人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童を育成する」を人権教育の基本目標とし、教育活動全体を通じて児童の人権意識を高める取組をしています。

異年齢集団活動の一つとして、「なかよし給食・なかよしデー」があります。この活動は、学期ごとに一回ずつ、一年生と六年生、二年生と四年生、三年生と五年生が兄弟学級を作り、会食と遊びを通して交流を深めます。

「なかよし給食」では、四年生から六年生までの児童が、配膳や片付けを低学年の分まで協力して

本校では、子どもの心を育てるために「よりよい自分をめざし、ともに生きる児童の育成」をテーマに道徳教育の研究を行うとともに、全教育活動を通じて、人権教育に取り組んでいます。

小・中・高の連携における人権教育の実践

中学校との連携においては、桶川西中学校の生徒が、朝のあいさつ運動に各学期一回参加してくれます。多くの先輩と直接ふれあうことは、子どもたちの心に訴えかけるよい機会となっています。そして、本校では六年生が「歌声交

行っています。特に、六年生は片付けの際に、一年生の牛乳パックを開いてあげるなどの優しい一面が見られます。

給食を食べたあとの「なかよしデー」では、低学年の児童が安全に遊ぶことができるように手を添えてあげたり、遊び方やルールをわかりやすく教えてあげたりするなど、高学年の児童が細やかな気遣いをしていました。

このように、異年齢集団での活動を通して、児童は互いを思いやる気持ちや優しさ、助け合いの気持ちを学んでいます。

今後も、子どもたち一人一人に豊かな人権感覚を育成するとともに、家庭・地域と協力しながら、人権教育の推進に努めていきます。



交流会」と題して、毎年十月に桶川中学校と交流しています。お互いに歌声を響き合わせることで、心の交流を図るとともに、卒業後の進路に対する安心感や喜びを感じることが出来ます。また、高等学校との連携では、桶川西高等学校の生徒が本校に水槽を設置し、鮭の卵を入れてくれ、子どもたちが鮭の卵がふ化する様子を観察することができます。子どもが多くが毎日興味深そうに水槽をのぞき込み、鮭の成長していく様子を観察し、命の尊さ、大切に気づいてくれています。

このように、小・中・高が連携を図り、計画的に交流を行うことにより、子どもたちの心の中に人権意識が育つことを願っています。



本校では、学校教育目標「学ぼう 未来へ育てよう 心と体」を具現化するため、人権教育目標「①一人一人の人権を尊重する教育②相手の立場を考え、ともに学びあえる生徒」を設定して、人権教育を推進しています。

今年度も全校生徒が人権作文に取り組みました。「いじめ」などの学校における人権問題に限らず、世界の貧困や不当な児童労働から、現在の自分自身の生活を考えた地球規模の視点で書かれた作文も見受けられました。

例年の生徒会活動の一つに、「ペットボトルのキャップ回収」があります。今年は、九五キログラム分を回収し、業者に引き渡しました。これにより約四七・五人分に相当するワクチンを贈ることができました。

また本校は青少年赤十字(JRC)登録校と

この二つの活動のように、学校の壁を越えて地域・社会とつながりをもつ活動を、今後実施していきたいと考えています。



本校では、「志を持ち 自ら学ぶ 健康でたくましい生徒」を学校教育目標としています。人権教育においては、「①人権意識を高める。②人権に関する正しい理解を深める。③様々な人権課題を解決しようとする態度を育てる。」を目標に定め、「他人の立場に立って物事を考え、正しい判断と行動ができる、差別をしない、素直で優しい心を持つ生徒」の育成を目指しています。

今年度より生徒会、各委員会の委員長、各学級の代表委員により組織される中央委員会を足させ、生徒会活動の活性化を図りました。中央委員会とは、各委員会と生徒会とが共同して計画した取組を、各学級の代表委員へ伝え、学校全体で、クリーンボランティア(清掃活動)や落ち葉はき、あいさつ運動などを実施するた



めの組織です。中央委員会に所属する生徒が、よりよい学校を目指して活動する姿が、他の生徒たちの関心を高めています。特にクリーンボランティアは参加者が増え、「きれいな環境の中で豊かな心と豊かな学びがある学校」を目標に、活動に励んでいます。協働的・体験的な実践の中で人権感覚を養い、仲間や地域との交流を深め、社会に貢献できる桶川西中生となつてほしいと思います。



思いやりの心を育てる異学年の交流活動

朝日小学校

本校では、学校教育目標「豊かな人間性と自ら学ぶ意欲をもってたくましく生きる児童の育成」を受け、人権教育目標を「人間尊重に徹し、人権尊重の高揚を図り、人権に対する正しい知識と理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童を育てる」として教育活動全体を通じて、人権意識を高める取組を行っています。

朝日小学校の異学年交流学級は、一年と六年、二年と五年、三年と四年の組み合わせで組織されています。運動会の応援練習、朝日っ子ランチの会食と集団遊び、あさひっ子まつりの遊びの運営を年間行事に位置付けて交流しています。



今年も、心の交流を図り、人権意識を高めていきたいと思えます。



育てよう、人権感覚

日出谷小学校

本校では、学校教育目標「共に学びあい 共に生き 共に明日をつくる」のもと、人権教育目標「人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、人権尊重の精神を育てる」を掲げ、全教育活動を通じて、人権教育に取り組んでいます。

職員研修において人権感覚育成プログラムを通して、子ども達の人権感覚をより豊かにするために、アイスブレイキング(心の緊張を解きほぐす雰囲気づくりのゲーム)や事例研修などの「参加型体験学習」をしました。これにより、職員の資質の向上を図ることができました。



本校の人権感覚育成プログラムでは、一年生の生活科「わたしのかぞく」、二年生の生活科「あしたへジャンプ」、三年生の道徳「貝がら」、四年生の社会「けんこうなぐらし」、五年生の学級活動「障がい者のことを考えよう」、六年生の学級活動「心の中は...?」などを実践しています。これらの活動を通して、お互いが認め合い、思いやる心が育つよう取り組んでいます。

人権教育DVDの紹介

〈私の中の差別意識〉(解説24分)



〈概要〉
部落差別問題を通して、差別意識への気づきを促している。日常生活において、あからさまな部落差別は影を潜めながら、今もなお、結婚差別や就職差別そしてインターネットでの差別は残っている。ドキュメンタリー全体を通して、差別された人々の心の痛みを伝えながら、自らの差別意識に気づき、正しい知識や判断力をもつことの大切さを訴えている。

〈メンタルヘルスと人権〉(ドラマ30分)



〈概要〉
ある大手商品製造会社に勤務し、今まで無遅刻無欠勤の三十歳になる社員が、日々の過重な業務と会社内のパワーハラスメントにより次第に疲れていく。妻とのありふれた家庭生活にも亀裂が生まれ、やがてうつ病となる。病気の回復期から職場復帰まで、彼を取り巻く人々と本人からの視点で考えていく問題提起型のドラマである。

※視聴をご希望の方は、生涯学習スポーツ課までお申し出ください。

「『ハートフル』って何？」先日、こんなことを聞かれました。「心のこもった」と訳される本校のキャッチフレーズです。また、本校の正門の脇には大きく『たのしい・ためになる・たよれる学校』という横断幕が掲げられています。本校ではこの二つのことを基盤に日々の教育活動を進めております。

各学年五クラス(一学年は六クラス)で高校としては小規模校ですが、そのため、生徒一人一人に対して、目が届きやすく、学年中心に様々な取組をしています。人権教育も学年に分かれて推進しています。

学校全体としては、毎年一学期に助産師による講演会があります。「いのちの大切さ」を伝える性教育ですが、生徒は真剣に聞いています。同じく「いのちの大切さ」を学ぶために、毎年二学年では平和学習に取り組んでいます。

今年も、沖繩に修学旅行に行くというところで、唯一地上戦が行われた沖繩戦を事前学習で取り上げ、旅行先でも平和祈念資料館やガマの見学を通して、平和と「いのちの大切さ」を学びました。

『ハートフル』桶西生を目指して

埼玉県立桶川西高等学校



人権作文

チョコレートから見ると

世界の今

桶川中学校 一年

岩崎 萌

みなさんは、食べ物を食べるとき、何かを考えて食べたことがありますか？

私たちが食べる物一つ一つに、人の労働と、みなさんがけつして知ることのない、つらく悲しい物語が存在します。

私は、その中から、日本人ならだれもが食べたことがある「チョコレート」を題材にしてお話します。

その前に、私がなぜチョコレートの物語を知ったのか、それは、小学校での授業です。

総合の授業の時、チョコレート製造工程について学習しました。その後、興味を持ち、本やPCな

ど様々な方法を使って、くわしく調べてみたことがきっかけです。そもそも、チョコレートの物語とはどういった話なのでしょう。

その国は、日本とはほぼ無縁の生活を送っている、とても貧しい国々です。そのような国では、「児童労働」という、私たちと同じ年

位か、幼い子供が、わずかなお金で売られ、朝六時から十二時間以上ただ働きさせられて、食べ物をほとんど食べさせてもらえないのが現実です。なぜ、このような悲しいことが起こり、続いてしまったのでしょうか。児童労働が起きている国は、毎日食べていく事さえ困難です。そのような国では、両親が子供の仕事を見つけて働かせ、家庭に仕送りしてもらえると考えると、彼ら売る事から始まります。たしかに、子供の食べ物は必要な

くなりますが、子供からの仕送り

はほとんどありません。こうしたケース以外にも、知人の家の家庭使用人として働かされたりします。どのようなケースにもいえること、それは続けてしまうと子供の心や

体にも、将来の国にも良くないという事です。それに比べて日本はどういった状況なのでしょう。日本では、十

八才未満が未成年、つまり一般的にいう子供の分類に入ります。貧しい国に多いのは、出生登録が出されていないことです。具体的に届け出が出ていないと、自分の年

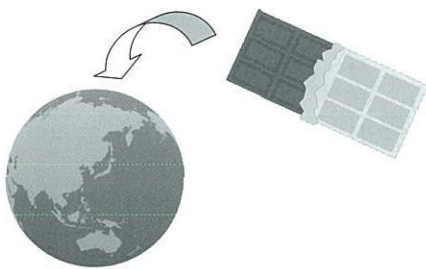
れいが分からなかったり、サービスが受けられないという問題も出てきてしまします。

こうしたことを未然に防ぐには、互いを尊重しあい、助けることが必要となってきたのだと思います。発展途上国だからといって、力力を公正な価格で取り引きし

なければ相手のためになりません。もちろん、今よりも価格は上がり

ます。しかし、自分たちのことしか考えないのであれば、救いの手を差し伸べる事ができません。

大きな一歩でなくても私達からできることだってあります。とても簡単なことです。自分が相手の立場に立つて考えることです。そうすれば、自然と相手のためになりたいと思うことができます。一つの心が大きく未来を変える、今の瞬間の行動で……。



編集後記

みんなで築こう 人権の世紀

～考えよう 相手の気持ち 育てよう 思いやりの心～

様々な人権課題解決のために、私たち一人一人が人権感覚を磨き、自らの課題として受け止め、日々の実践に向けて努力していきましょう

桶川市教育委員会生涯学習スポーツ課
〒363-0012 桶川市末広2-8-29
TEL 048-728-4111 (代表)